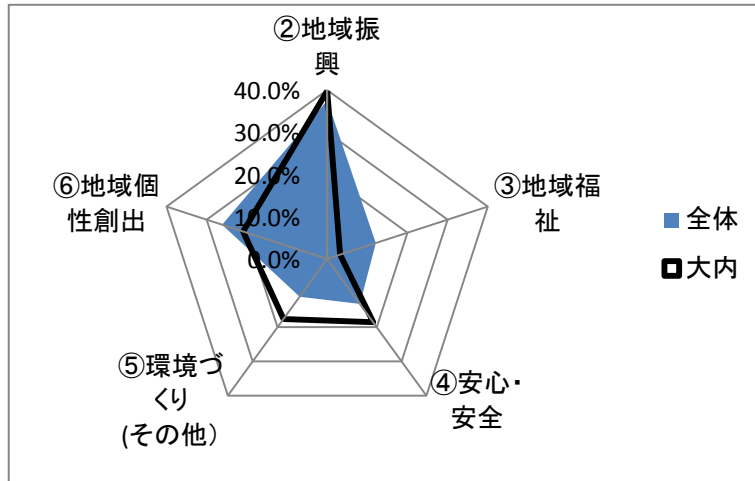


大内まちづくり協議会 地域づくり交付金事業概要(平成29年度)

■地域の情報

地域人口	22791人	自治会数	31
世帯数	9394世帯	自治会加入率	74.64%

※数値は、平成30年4月1日のもの



■決算状況

交付金配分枠	16,036,000 円
交付金決算額	16,010,188 円
その他収入	899,442 円
交付金決算額／配分枠	99.8%

各分野の決算

①協議会運営	4,633,349 円
②地域振興	3,253,552 円
③地域福祉	262,920 円
④安心・安全	1,516,601 円
⑤環境づくり(土木工事)	4,089,000 円
⑤環境づくり(その他)	1,440,357 円
⑥地域個性創出	1,713,851 円
決算総額	16,909,630 円

■地域づくりの活動方針(テーマ)

伸びゆく大内 人の輪 夢の輪 地域の輪

■総括

地域課題を解消するために、安心・安全のまちづくり、埋もれた歴史・文化の掘り起こし、健康な生活を維持するためのスポーツの振興など地域に密着した事業の展開を行っています。
徐々にですが、成果が上がりつつあります。今後は更に新しい課題や地域の人達が意欲をもって取り組める課題を模索し、地域づくりの企画を進めるよう努力します。

■分野別事業名

① 協議会運営	事務局長給与、事務局員給与、事務費等
② 地域振興	大内地区広報誌等印刷事業、大内まちづくり協議会情報共有、大内の四季風景カレンダー作成、第39回大内まつり、大内地区健康体育祭、地域自慢コンテスト、第24回大内地区じんけん学習まちづくり大会、大内地域アーカイブス(仮称)の構築
③ 地域福祉	大内地区老人大学講座、活動量に着目した地域型健康づくり、大内の良さを再発見しながら楽しいウォーキング、ふまねっと運動導入、子育て支援、心と体の健康づくりみんなで語ろう、健康促進球技大会
④ 安心・安全	自主防災組織の設立、災害対策の充実、巡回パトロール、大内っ子まもり隊活動の推進、反射鏡設置補助事業、交通安全教室の開催
⑤ 環境づくり	土木工事(法定外公共物等)、交通安全環境施設設置整備、河川環境美化活動助成金交付、里山河川ふれあい補助、休耕田の活用

⑥ 地域個性創出	大内コードモジカン、標語ポスター・カレンダーの作成、標語看板の作成、広報誌(青少協だより)の発行、三世代交流事業、食農教育、大内史跡探訪会、地域協育ネット支援、教育講演支援、学校環境整備支援、夏のフェスティバル
----------	---

■重点的に取り組んだ事業

①	事業名	大内コードモジカン	決算額	174,092円	
	目的	夏休み等の長期休業日を活用し、各自治会・町内会単位で市民活動団体のボランティアスタッフと協力し、子どもの体験活動(宿題教室、もの作り教室等)を行い、同じ地域に住む子ども達と大人の新たな絆づくりを目的とする。			
	実施内容	中村・小京都・金成団地・御堀(御堀団地)・氷上・小野の6地区が参加。夏・冬・春休みに自治会集会所等で、子ども達の宿題や工作等を指導した。			
	実施時期	平成29年7月～平成30年3月			
	参加人数	中村・小京都・金成団地・御堀(御堀団地)・氷上・小野各地区自治会役員、ボランティアスタッフ、子ども達 のべ約500名			
	成果	子どもを地域の皆で育てるため、大人達が協力し実施した。			
	評価	子ども達の参加が多数あり、世代間交流が活性化し、楽しい行事となっている。			
	今後に向けて	来年度も引き続き実施する。			
②	事業名	活動量に着目した地域型健康づくり	決算額	94,567円	
	目的	行政の専門職(健康増進課)と連携し、地域での主体的な健康づくりの取り組みを行う。			
	実施内容	活動量計のデータを基に、保健師や管理栄養士の指導や相談を受けながら、ウォーキング等の運動メニューを行った。			
	実施時期	平成29年9月～12月			
	参加人数	地域住民30名(活動量計使用者)			
	成果	認知症予防や健康な老後を過ごすための、心と体のケアができた。			
	評価	参加者の評価が好評であることから、更に増員が見込める。			
	今後に向けて	来年度も引き続き実施する。			
③	事業名	交通安全教室の開催	決算額	15,462円	
	目的	多発している高齢者の交通事故防止対策として、薄暮～夜間の外出時に注意すべき事項について講習会を開催する。			
	実施内容	自動車学校のコース上で車両を使用し、各色の服装での視認性の確認や反射材の効果を経験した。			
	実施時期	平成30年1月20日			
	参加人数	99名			
	成果	車両を使用しての講習で、薄暮時～夜間の交通事故防止策を習得できた。			
	評価	諸条件での視認性を体験することができ、参加者の評価は非常に高かった。			
	今後に向けて	来年度も引き続き実施する。			